平成２６年度入学式　学長式辞

愛媛大学長　柳澤　康信

本日、全国各地から、そして、外国から、あわせて１，９６２名の若々しい皆さんを愛媛大学の新入生として迎えることができました。愛媛大学を代表して、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

この佳き日のために、ご多用にもかかわりませずご臨席を賜りました愛媛県の各界を代表するご来賓の方々、愛媛大学校友会・同窓会代表の皆様、名誉教授の先生方に厚くお礼申し上げます。そしてまた、ご列席いただいた新入生のご家族、そして関係の皆様にも厚くお礼申し上げます。この佳き日を迎えられ、お慶びもひとしおのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

さて、新入生の皆さんはこれから愛媛大学での生活が始まります。皆さんの胸の中には大学生活に向けて、夢と希望が大きく膨らんでいると思います。卒業までの４年間、あるいは６年間は、皆さんが将来自立した責任ある社会人として生きぬく力を身につけるためのかけがえのない期間です。日々の過ごし方によって、皆さんの将来は大きく違ってきます。皆さんがいま心に抱いている初々しい緊張感と期待感をこれからもずっと忘れずに、有意義な大学生活を送ってもらいたいと思います。

愛媛大学は、昭和２４年に新制国立大学として出発し、今年で６５年目を迎えます。国立大学法人となった平成１６年度に制定した「愛媛大学憲章」では、「学生中心の大学」「地域にあって輝く大学」の実現を目指すことを宣言しました。この理念の下で、これまで教育、研究、地域連携、国際連携においてさまざまな先進的な取り組みを行い、いずれの分野でも着実な成果を上げ、愛媛大学は地方の大学で注目される大学のひとつになっています。新入生の皆さんは、この愛媛大学に入学したことを誇りに感じて、胸を張って大学生活をスタートしてもらいたいと思います。

さて、皆さんは大学でどんな能力を身につけようと思っているでしょうか。ここで少し立ち止まって、大学で学ぶ意義を考えてもらいたいと思います。

愛媛大学では、学部や学科ごとにディプロマ・ポリシーを定めています。ディプロマ・ポリシーとは、聞き慣れない言葉かもしれませんが、「学生が卒業時に身につけていなければならない能力」を示した達成目標のことです。すなわち、大学の学位（ディプロマ）を授与されるためには、最低限どのような能力の修得が必要であるかを示したものです。

愛媛大学ではそれとは別に「愛大学生コンピテンシー」を一昨年７月に定めました。この「愛大学生コンピテンシー」のパンフレットはすでに新入生の皆さん全員に配布さ

れていると思います。ディプロマ・ポリシーとの違いは、ディプロマ・ポリシーが主に正課教育、すなわち正規の授業や研究活動の成果として達成されるものであるのに対し、コンピテンシーのほうは正課教育だけでなく課外活動を含む大学生活全体を通して修得することが期待される能力のことで、所属する学部を問わずすべての学生に共通です。コンピテンシーの内容を良く理解して、皆さんの大学生活の指針として下さい。

皆さんはこれまで小学校、中学校、高校と学校生活を送ってきましたが、これから始まる大学での学習や生活は高校までと質的に異なります。まずこのことを認識していただきたいと思います。高校までの学習や生活は、大雑把に言えば、教員や家族など周囲の人々の配慮や援助のもとで成り立っていたと言えるでしょう。一方、大学では自己裁量が格段に増えます。その分、自分自身で考え、判断し、自分の責任で意思決定することが大切になります。そこで求められるのは、ふたつの自立（自律)、「自分で立つ」と「自分で自分を律する」です。すなわち、他の人に依存するのではなく、自分で定めた規範に従って責任ある行動をとることが求められます。

学習の面では、大学は高校までと特に大きな差があります。大学での学習は、けっして受験勉強のように知識を記憶することに重点を置きません。収集した情報や知識を自分の頭の中で整理し、それらを相互に関連づけ、そして、それを基に自分で論理的に話を組み立て、相手が理解しやすい適切な方法で表現するという一連の活動ができるようになってはじめて、本当に知識が身につき学習成果が上がったと見なされます。

また大学では、すでに分かっている知識を学ぶことよりも、自分で問題を見つけ、その解決に向けて自分で学ぶこと、すなわち、課題解決型の能動的な学習がより重要になります。これはアクティブ・ラーニングと呼ばれています。アクティブ・ラーニングでは、チームをつくって対話や討論することが多くなります。すなわちチーム学習です。チーム学習においては、一人ひとりの能力に限界があっても、多様な知識をもった人たちが考えを出し合い、徹底的に話し合うことによって、当初誰も気づかなかった新しい解決策を発見できることがあります。このようなことが可能となるためには、チームのメンバーそれぞれが、「自分の意見をわかりやすく伝える力」、「相手の話を丁寧に聴く力」、「意見の違いや立場の違いを理解する力」などのコミュニケーション力を身につけている必要があります。このようなコミュニケーション力は実社会に出た時に特に重要になるものであり、学生時代に確実に身につけてもらいたいものです。

生活面でも、大学は高校までと大きく異なります。新入生の皆さんの約６割が県外の出身です。県外出身者はもちろんのこと県内出身でも松山から遠距離の人は、親元を離れて独り住まいすることになります。このことは皆さんの人生の中でひとつの大きな節目です。これまで家族と一緒の生活に慣れ親しんでいたのですから、これからの生活に大きな不安を抱いていたとしても無理からぬことです。しかし、親元を離れるのは自立

した大人になるために避けられない関門です。これからは、生活スタイルや生活リズムを自分自身で律していかなければなりません。ひとりの生活では、食生活が乱れたり、夜型の生活になったりしがちです。愛媛大学では入学生全員を対象として初年次科目「こころと健康」という授業を開講しています。この授業では、健全な大学生活を送るための知識を、心・体・食の３つの観点から学べるようになっています。そこで得た知識を参考にして、自分の生活を自分で律するという習慣をぜひ確立して下さい。

さて、皆さんは「人間は社会的動物である」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？先ほど、「愛大学生コンピテンシー」のことを話しましたが、そこで前提とされているのは、われわれ人間は本来的に「社会的動物」「社会的存在」であるということです。生物学的に見たとき、人間の祖先は何万年、何十万年の間ずっと群れ生活、集団生活をしてきたのですから、その子孫であるわれわれが社会的であるのは当然のことです。社会的であることは遺伝子の中に深く刻まれ、人間の本性（ほんしょう）となっているに違いありません。このことを私たちはもっと強く自覚すべきだと思います。

社会的存在である人間は、社会と関係をもたずに孤立して生きていくのは不可能です。いま、自立的に生きることの重要性を述べましたが、それは孤立して生きていくこととはまったく違います。自立した個人として自らの個性や適性を活かして生きていこうとすれば、他の人々との関係性の中で他の人に働きかけたり自分の行動を調整したりしながら、自分の目標を達成するしかありません。自立的に生きるとは実はきわめて社会的な行為なのです。

「愛大学生コンピテンシー」では、社会的能力として「多様な人とコミュニケーションする能力」と「組織や社会の一員として生きていく能力」のふたつを掲げています。社会的能力にはコミュニケーションする能力だけでなく、相手の立場になって物事を考える能力、集団の中で自分がどのような役割を果たすべきか理解する能力など社会生活を営むのに欠かせないさまざまな能力が含まれます。社会的動物である人間は、このような社会的能力の基礎的部分は生まれながらに備えています。しかし、ここで問題なのは、社会的能力はそれを発揮する機会が少ないと十分に発達しないということです。現代社会では、若い人たちは家族やごく限られた人とだけ緊密な人間関係を結びながら成長することが多くて、社会的能力を発達させる機会が十分にあるとは言えません。皆さんの中にも「自分は友達を作るのが苦手だ」と感じている人がいると思いますが、それはこれまでの人間関係の狭さにその原因があると思います。社会的能力を高めるためには、集団や組織の中に入ってさまざまな立場で経験を積むことが不可欠です。特に、組織の中で何らかの役割を担い、責任をもって行動するという経験の積み重ねが大事です。

私が、いま、新入生の皆さんに求めたいのは大学生活の中で、社会的な経験をたくさん積み重ねることです。皆さんに大学生活の第一歩としてまず勧めたいのは、仲間作り

に取り組むことです。具体的には、体育系サークル、文化系サークル、あるいは、ボランティア・サークル、ＮＰＯなど学内外の団体や組織に積極的に参加することです。愛媛大学にはいろんなタイプの団体がありますが、少なくともその１つに加入して、先輩や同輩そして教職員と一緒に活動する場を確保して下さい。

学生にとって授業などの正課教育は最も重視すべきものですが、正課外の活動からも学ぶことはたくさんあります。皆さんが、大学生活全体を通して、仲間と切磋琢磨しながら自分の資質と能力を磨き、社会でたくましく生きる力を身につけることを期待しています。皆さんの大学生活が「人とのつながり」の中で充実したものになることを心から願い、式辞といたします。